

On the "Moji-kotoba" (I)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/23273

文字詞について (I)

—近世語研究 (その二)—

深井 一郎

はじめに

文字詞は、女房詞の中の一つである。語形の頭部を残し、これに「もじ」という形を添えて作られた語の一群を言う。

文字詞は、中世宮廷女官たちの閉鎖的社會において生成したとされている。しかし、その生成の性格も、また、その変遷の過程も単純ではない。改めて、生成・変遷・性格などについて論ずるつもりであるが、今回は、これまでに明らかになった実態を、ともかく、資料として、一覧できるようにした。用例は適宜掲げた。

文字詞一覽

あをのもじ (青海苔)

- あんせんじ殿よりあをのもしまいる。(御湯殿上日記 文明 18. 4. 10)
- 御いちやよりあをのもしまいる。(御湯殿上日記 天文 16. 5. 4)

あか御まなのすもじ (鮭の鮓)

- までのこうしよりあか御まなのすもしまいる。(御湯殿上日記 慶長 6. 11. 16)
- あか御まなのすもしまいる。(御湯殿上日記 慶長 14. 2. 1)

あかのかもじ (赤いかつら)

- 大御ちの人よりあかのかもしまいる。(御湯殿上日記 天正 14. 12. 21)

あさあさくもじ (浅漬の茎漬)

- ふしみよりあさあさくもし二おけまいる。(御湯殿上日記 弘治 2. 12. 26)

- 御あちやあちやよりくもしあさあさまいる。(御湯殿上日記 天正 11. 3. 15)

あだもじ (仇者、色めいた女)

- よくそねむ奴等だぜ、仇文字に聞て見や。(浮世床、初上)

あまくもじ (甘酒)

- くわんしゆ寺よりあまくもしまいりてみなみなにたふ。(御湯殿上日記 天正 14. 12. 28)
- あまのくもしまいる。(御湯殿上日記 慶長 3. 5. 23)

あめのすもじ (鮫の鮓)

- いよ殿よりあめのすもしまいる。(御湯殿上日記 貞享 3. 6. 28)

あもじ (姉)

- あもし御所もいらせおはします。(御湯殿上日記 文明 14. 6. 23)

あもじ御所 (安禅寺殿)

- つうけん寺殿、あもし御所のかつき御所よへの御まきいまつ御申ありてくもしなる。(御湯殿上日記 文明 13. 12. 23)

- あもし御所昨日の御くすりにて御けんなるによへよりもとのことく御大事にて、(御湯殿上日記 延徳 2. 12. 2)

あゆのすもじ (鮎の鮓)

- しやうくんよりあゆのすもし二おけしん上。(御湯殿上日記 慶長 9. 4. 4)

あんもじ (案文字、心配)

- 龍王様の御案もじが御笑止さに、姫ごぜの身で大胆ながら、わつちが思案を申上げます。(根無草 前三)

いづものもじ (出雲海苔)

- はんせうよりいつものもしーおりまいる。
(御湯殿上日記 文明15. 5. 28)
- いせのもじ (伊勢海苔)
○こんすけ殿よりいせのもしまいる。(御湯殿上日記 天文10. 3. 23)
- いそもじ (急文字, 忙しい)
○教万人, 心心の願立に神のお身さへ, アアいそもじの。(浄瑠璃 生玉心中上)
○でへぶおいそもじだね。(北廊鶏卵方)
- いなくもじ (濁酒)
○いなくもしのおけ二つまいる。(御湯殿上日記 慶長5. 5. 6)
- いもじ (鳥賊)
○はくよりさかひての御ひら, いもしもまいる。(御湯殿上日記 明応4. 5. 21)
○一 いもじ いか (大上藤御名之事)
○一, いかは いもじ (女重宝記)
(婦人養草・女中詞・女中言葉・女言葉・女中ことばに見える)
- いもじ (いわ千代, 人名)
○御所御所昨日のま、御しこうにての御ひしめきあり。いもしもをなし。(御湯殿上日記 長享2. 3. 13)
- いもじ (伊予, 人名)
○なかはしよりかき一ふたまいる。大すけよりかき一ふたまいる。いもしより一ふたまいる。(御湯殿上日記 永禄1. 9. 7)
- いもじ (亥子餅)
○御いのこの御いはるいつものごとし。一略一いもしまいるて御所にて御さか月まいる。(御湯殿上日記 長享1. 10. 9)
- いもじ (石)
○なにと御かくしにても, かもじにも耳, いもじにも口, 悪事千里とやらん。(評判記 吉原用文章 四)
- いもじ (湯文字の訛音)
○いもじをぐっとまくりなと女いしゃ (雑俳 未摘花 二)
○手前のいもじがせんたく前だから, 人の裁立のいもじを取り違へたふりで, ことわりなしにめて出る子などがあらあな。(洒落本部屋三味線)
- いもじさ (忙しさ)
○ここ御程けふは何かといもしさ, えまいり候ましく候。(宝鏡寺日記 明暦3. 1. 5. 紙脊)
- いろもじ (好色的な文章)
○西鶴なくなりしとて, その道絶えしにもあらず。たとひ時うつり事さり, 楽しむ悲しみゆきかふとも, 分 (わけ) の色文字あるをや。(浮世草子 元禄大平記 1-3)
- うちまるのすもじ (鰻の鮓)
○二み殿よりうちまるのすもし。てんかいまいる。(御湯殿上日記 享禄5. 5. 11)
○大すけとのよりうちまるのすもしまいる。(御湯殿上日記 天文3. 4. 19)
- うもじ (内方, 内儀, 妻)
○うもじ 人の内義也。(女中詞)
(女中言葉・女言葉・女中ことばに見える)
○鳥居町の八五郎さま御うもじ様。(洒落本 船頭深話, 手紙宛名)
- うもじ (宇治茶)
○大ふくは年もうもじのうち茶哉。(俳諧 毛吹草五)
○名園さまざま多けれど七種の園と伝へしは森, 祝, うもじ一^一琵琶や弾く, 引手からなる宇治の茶の, (歌謡 松の葉^四)
- えもじ (ゑそ, 狗母魚, しらなみ)
○一ゑそ えもじ しらなみ。(大上藤御名之事)
○えもし えそと云魚のこと 又しらなみとも云。(貞丈雑記^六)
- えもじ (海老)
○ひやうへのすけゑもし色々しん上申。(御湯殿上日記 永禄11. 8. 25)
○しゆこうより御いた, ゑもしまいる。(御湯殿上日記 慶長3. 8. 30)
○ゑびはゑもじ。(女重宝記)
(女中言葉・女言葉にも見える)
- ゑもじ (衛門内侍)

- 御けつりあせち殿しこう、御くしゑもし。
 (御湯殿上日記 明応2. 5. 2)
- えんもじ** (閻魔大王)
 ○ゑんもじまいる ちむかしをおもひだいた
 うはがきじゃな。(虎明本狂言 八尾)
- おあゆのすもじ** (鮎の鮎)
 ○しゆこうより御あゆのすもしまいる。(御湯
 殿上日記 享祿1. 9. 26)
- おいもじさ** (いとしい、かわいいと思うこと)
 ○誠に他念なく、御いもじさ、中々かりそめ
 ぶりに見え参らせ、今さら思ひのたねとな
 り参らせ候。(薄雪物語下)
- 大きくもじ** (大杯の酒)
 ○女中なみなみと大きくもしありて うたいあ
 り。(御湯殿上日記 永祿5. 1. 29)
- 大すもじ** (大典侍)
 ○くらむまの花の枝前大すもしよりまいる。
 (御湯殿上日記 天文11. 3. 20)
 ○大すもしよりあめ一をけまいる。(御湯殿上
 日記 文明14. 1. 4)
- 大もじ** (大典侍)
 ○大もし。御所。(御湯殿上日記 天文10. 2. 26)
 ○あさ御さか月まいる。御こわくこ大もし。
 なかはし。いよ殿。三こんまいる。(御湯殿上
 日記 明応6. 1. 1)
- 御おもじ** (帯)
 ○御おもしはいんの御所。しゆこう、女御へ
 はかりそいてまいる。(御湯殿上日記 天正
 18, 9, 9)
- をかもじ** (岡殿, 人名)
 ○をかもし二かう。一かしんしやうなり。(御
 湯殿上日記 延徳4. 1. 18)
- おかもじ** (他人の妻, 上様)
 ○小娘に、おかもじと名をつけ初て、つひ母
 親とかはる世の、げに光陰の柳ごし。(浄瑠
 璃 小夜中山鐘由来三)
- おきもじ** (気遣い, 気分; 機嫌, 気の毒)
 ○よしなき人の世話やいて、骨折ぞんじやと
 思ひながし、深うおきもじなさるな。(浄
 瑠璃 南蛮鉄後藤目貫三)
- お顔の細った事はいな。おきもじわるふは
 ござりませぬか。(浄瑠璃 平仮名盛衰記二)
- 花園姫様には、この御所においでのお様子、
 承りましたゆゑ、さぞおきもじにあらうと、
 お案じ申し上げましてござりまする。(歌舞
 伎 四天王楓江戸粧六)
- 御睡眠の夢をさき、何ともおきもじ。(滑稽
 本 七偏人四)
- おきもじさま** (気の毒)
 ○弁吉猫は直に拘引、是も十円の大イタイタ、
 時分柄寔におきもじさま。(当世書生氣質)
- おきやくもじ** (客)
 ○姫君は、けふの御きやくもじにてましませ
 ば、まづまづ一首あそばし候へ。(お伽草子
 鉢かづき)
- おくもじ** (くもじ, 九献, 酒)
 ○まき(チマキ)にて御くもしあり。(御湯殿上
 日記 慶長3. 5. 24)
- おくもじごと** (酒盛)
 ○権佐して一日の御くもし事おほせきかせら
 る。(御湯殿上日記 永祿3. 5. 8)
- おくもじ** (還御)
 ○御くもしなるとて、いとまこひになる。(御
 湯殿上日記 永祿5. 3. 25)
- おくもじ** (苦勞)
 ○物に馴たるお千枝が出迎ひ、皆様お供いか
 いおくもじ。(浄瑠璃 信州姥捨山三)
- おくもじ** (奥様)
 ○柴田氏の奥もじ様。(浄瑠璃 蝶花形名歌鳥台
 十)
- おさもじ** (淋しい)
 ○今日はことなうおさもじさう故、誰をがな
 お伽にと思ひしに。(浄瑠璃 御所桜堀川夜討
 三)
- おしゃもじ** (杓子)
 ○おしゃもじとは杓子のことでございます
 よ。(浮世風呂呂三) (女中言葉・女中詞にも見える。)
- おすいもじ** (推量)
 ○恋にはあらず、御推もじあれの類の詞ぞ。
 (三体詩抄)

- なに、上野ぢやあない、昨夜内で、まだ男の肌を知らない極おぼこなお嬢さんを、跡は言はずと御推もじさ。(歌舞伎 三題漸魚屋茶碗_三)
- おすもじ (鯨)**
- くわんしゆ寺入たうる中よりのほりて、御みやけに御らうそく三十ちやう、御すもしん上あり。(御湯殿上日記 天文13. 9. 27)
- 近頃は、おすもじでもお結びでも一口にいけますし。(十六歳の日記、川端康成)
- おすもじ (推量)**
- はつかしき身の内証をさかせまゐらせ、その折からのせつなさ、申さぬとても、御すもじあれかしに候。(浮世草子 御前義経記_七)
- 顔あらふなるてうずのこといふもの一包に朱印おして、御すもじとのみあり。(随筆 独寝_上)
- おすもじ (大典侍)**
- 御ゆめす、おすもし御まいり。(御湯殿上日記 文明17. 3. 29)
- おせもじ (世話すること)**
- 段々のおせもじで殿御を持てば、此家は血脉の私が納めます。(浄瑠璃 忠義墳盟約大石_八)
- おせもじさま (お世話さま)**
- それから此方馬の傍へ寄るも嫌ひだ。近頃おせもじ様ながら、おらが旦那をちょっと馬から降り申してくれまいか。(歌舞伎 御撰勸進帳_四)
- おせんもじ (煎茶)**
- せんじちやをおせんもしと云。(女房狭書)
- おそくもじ (息災、お元気、ご無事)**
- それまでは、ずるぶんずるぶん御そくもじにて御暮し頼入り参せ候。(浮世草子 御前義経記_七)
- おちもじ (お乳の人)**
- 新すけ殿御ちもしよりうとまいる。(御湯殿上日記 永正5. 6. 25)
- おちやのもじ (お茶の子)**
- いせのしちれん寺よりほもしのはこ、御ちやのもしまいる。(御湯殿上日記 享禄3. 2. 15)
- おともじ (乙御前、醜女)**
- 乙御前の絵。花山に住む人とて口とちてこの乙文字はとどめざらなん。(狂歌 雅筵醉狂集_雑)
- おねもじ (練絹)**
- 女御の御かた御おり物。御ねもし。御おひいてきてまいらせ候て。(御湯殿上日記 慶長3. 12. 30)
- おはもじ (恥しい)**
- おとなけなきおやをもち、御はもしに御座候へとも、(昨日は今日の物語)
- おはもじ 恥し。(女中詞)
- いくさは是がはじめ也。しや御めんあれ御はもじやと 魚がほしてこそ立にけれ。(浄瑠璃 頼朝浜出_一)
- おはもじながら今宵の固め。(歌舞伎 貞操花鳥羽恋塚_六)
- おはもじい (恥しい)**
- 哥詠もふとは厚皮者、恥を知らぬと思し召もおはもじふ存じます。(歌舞伎 名歌徳三弁玉垣_五)
- ほんに此やうなおはもじい、さもしい事を。(歌舞伎 絵本合法衛_六)
- 十七八の新造のやうにお耻じいと言ふ訳からにても有りやすめへ。(春雨文庫、和田定節)
- おはもじさ (恥しいこと)**
- 仰せのごとく、過し世はなれなれしき御言の葉、さてさて御はもじさにて候。(仮名草子 薄雪物語_下)
- 御望と有故、拙い舞ぶりお目にかけ、おはもじさよ。(浄瑠璃 義経千本桜)
- おはもじさま (恥しい)**
- 拙いしらべもお笑ひ草、おはもじさまやと会釈する。(浄瑠璃 生写朝顔話)
- おひらのすもじ (鯛の鯨)**
- しゆこうより御ひらのすもしまいる。(御湯殿上日記 慶長3. 2. 27)
- しゆこうのかたより御ひらのすもしまい

- る。(御湯殿上日記 慶長3. 3. 1)
- おふもじ** (文, 手紙)
- つづまやかなる御ふもじ, まことにまことにかたじけないといはんとすれど。(仮名草子 ねごと草_下)
- おほもじ** (干飯)
- いま上らふ御ほもしはしめて御下りて下さりとて御てうしまいりて御いわるあり。(御湯殿上日記 延徳2. 9. 3)
- おめもじ** (お目にかかる)
- かねても御めもじのふしに, 申しまゐらせ候とほり, 流れの里の中々に, 浮たることをものしく, (春色辰巳園_四)
 - ひと夜お目もじしたばかりにすぎませぬ。(山吹 室生屋星)
- おめもじさま** (お目にかかる)
- 御用とは何ならんおめもじ様にと夕がほの。(浄瑠璃 姫山姥二)
- おもじ** (帯)
- けふの御ふくまいる。をもしそひてまいる。(御湯殿上日記 天正15, 5, 5)
 - 御つかいになかはしよりおもしろいつる。(御湯殿上日記 慶長8. 1. 3)
 - おびは おもじ。(女重宝記)
 - 此おもじをと柳の帯をといてほり出す。(洒落本 色深狭睡夢_上)
- おもじ** (恐)
- 女中の大老浮橋の局一略一しとやかに文押開き, 高々と読上げける。おもじながら申上まゐらせ候。(浄瑠璃 右大将鎌倉実記_五)
 - 君が付けざしをいただき山としゃれたまへば, 野塩一とくちのんで, おもじながらとさし出すを。(洒落本 女鬼産)
- おもじ御所** (岡殿)
- あもし御所。おもし御所。大しやう寺殿。むかへの御所々々もなる。(御湯殿上日記 文明19, 3, 18)
 - 新大すけとの、御よひにおもし御所もなる。(御湯殿上日記 永禄5. 10. 21)
- おゆもじ** (湯具)
- しゆこう。女御へも御ゆもし。御なか入。御おひそいてまいる。(御湯殿上日記 慶長5. 9. 9)
 - 二の宮の御方へはかり御ゆもしまいる。(御湯殿上日記 慶長5. 9. 9)
- おゆもじ** (ゆかしいこと)
- 御いもじとも御ゆもじとも, さらに何の心も知り候はぬわが身に, (仮名草子 薄雪物語_下)
- おりよもじ** (慮外, 意外)
- 是は近ごろお慮もじ, 是れから万事お世話がち, 兎角御念もじになされて, (浄瑠璃 阿波の鳴門_五)
 - おりよもじながら二人り連, 誘合してけふここへ来事は来ても, (続歌舞伎年代記)
- おわもじ** (わずらい, 病気)
- 永々の船中, 随分おわもじなき様に, 御機様にてお帰りを, (浄瑠璃 姫小松子日の遊_一)
- おはりのすもじ** (尾張の鮭)
- おはりのすもしまいる。(御湯殿上日記 延宝9. 6. 16)
 - ひくち宰相よりおはりのすもししん上。(御湯殿上日記 貞享3. 7. 2)
- かもじ** (髪)
- かもじゆふ事。まづかみのうゑのきわを。びんのかみをのけてゆひて。したをそろへてけづる也。入元結して上はとくなり。かもじの多き少なきは, 若き人と年よりはすくなし。その他はよきころたるべし。かもじの尺は定まりたり。人だけによるべからず。余らばそのまゝたるべし。(大上藤御名之事)
 - さても見事なる御かもじかな。緑髪は柳の糸の乱るるが如しといへども, (仮名草子 竹齋_上)
- かもじ** (かつら, 添え髪)
- いまたかもし御かけ候はぬとて。(御湯殿上日記 元龜2. 12. 28)
 - 髪をあみ列ねて作るかもじなどの様な物

- ぞ。(毛詩抄)
- 是見よと引ほとき給へば、かもじいくつか
 落て地髪は十筋右衛門と。(好色一代女_三) (禁
 裡女房内々記・洞中年中行事・女中詞・女言葉にも
 見える)
- かもじ (母, かか)
- かもし たらちめ 母。(女中詞)
- ナフ, そふいふは鶴国のかもじ, 輩か。(浄
 瑠璃 浦島年代記)
 (女中言葉・女言葉・女中ことばに見える)
- かもじ (上様, 妻)
- かもし かみさまと云事。(女中言葉)
- アイサ, 今夜から, 晴れて五平太様のおか
 もし様さ。(歌舞伎 心妬解糸)
- かもじ (かちん, 餅)
- なかはしよりくりのかもしまいる。(御湯殿
 上日記 天正18. 8. 30)
- 大御ちの人よりあかのかもしまいる。(御湯
 殿上日記 天正14. 12. 21)
- かもじ (梶井殿, 人名)
- ふもし御所よりは三色に一か。かもしより
 は一折にかたかたまいる。(御湯殿上日記 文
 明14. 12. 8)
- かもじ (かつしき, 喝食)
- 御かつしき御所の御きたうさせらるゝにつ
 きて。御かもし御所よりたふとて。しもか
 はら殿よりのを卍なんはにたふ。(御湯殿上
 日記 明応8. 5. 4)
- かはのすもじ (竹の皮の鯨か)
- とんけ院より河のすもしまいる。(御湯殿上
 日記 慶長3. 7. 3)
- きもじ (氣遣い, 気色, 気疲れ, 機)
- 御祈禱の験にやいついつよりも心地も勝れ
 る。自らがきもじは無用。(浄瑠璃 古戦場鐘
 懸の松_三)
- いつにないお顔持ち, お天気もじ悪うはご
 ざりませぬか。(浄瑠璃 絵本太功記)
- さぞお気もじにあらうと, お案じ申し上げ
 ましてござりまする。(歌舞伎 四天王楓江戸
 粧_六)
- 御きもじさまやすふ思し召下されかし。(酒
 落本 東山見番意妓口)
- きもじ (貴殿, 貴様)
- いかなる縁にか, 貴もじの御器量にとんと
 ほれまして申ます。(浮世草子 宇津山小蝶物
 語_八)
- きもじ (狐)
- 松の木に鳥, いかにも新しき肉をくはへい
 たる折ふし, 其下に狐居合せて, (略)くろ
 きいろはうるしも物かはぢや, 鳴給ふ声も
 諸鳥にかはってさびたり, 啼て聞かせられ
 候へかしと云, かもし聞て, きもじの云所
 まぎれもなき事也。(戯言養気集_下)
- きやもじ (華車, きやしや)
- いりゑとのよりきやもしなるきくの枝まい
 る。(御湯殿上日記 大永7. 10. 5)
- きやもしにて, みなみな御めおとろかす。
 (御湯殿上日記 明応5. 2. 16)
- 宮内卿まで御小袖, きやもじなる御したて,
 見る目も匂ひもあやしきばかりなり。(東国
 紀行)
- キャモジナ, キャシャ。繊細, 清楚できら
 びやかなるもの。これは女性のことばであ
 る。(日葡辞書)
- くもじ (九献, 酒, 酒宴)
- おとこたち申のくちにてくもしまいる。(御
 湯殿上日記 天正15. 7. 14)
- おにのまにおとこたちくもしまいる。ちけ
 ちんのさにてくもしのむ。(御湯殿上日記 天
 正16. 7. 7)
- くもじ (茎, 茎漬)
- 一, くき くもじ。(大上臈御名之事)
- くきは くもじ。(女重宝記)
- 禁裡女房内々記に云(略)くもじ なのくき
 の事。(貞丈雜記_六)
- うちのほうをん院よりくもし二をけ。むめ
 一をけまいる。(御湯殿上日記 文明14. 1. 9)
- クモジ 漬物用の塩水の中につけた茎, ま
 たはかぶらのひげ状のもの, または根。女
 性のことば。(日葡辞書)

- みくしけ様よりくもし御ふたまいられ候、大宮よりくもし上る。(宝鏡寺日記 承応3. 4. 8)
- くもじ (還御)
- 宮の御かたこよひ二てうへくもしなる。わかみやの御かた。二の宮。五の宮もくもしなる。(御湯殿上日記 天正9. 7. 8)
- かち井殿こよひくもしなる。(御湯殿上日記 文明11. 8. 28)
- くもじ 還御。(公家言葉集存)
- くもじ (にんにく)
- くもし にんにくの事。(女中詞)
- くもじ (栗)
- なかはしよりくもしのかもしこしらへてまいる。(御湯殿上日記 天正17. 8. 21)
- くもじ (頸)
- 夕かたさかものふけへ木沢かくもしのほりて。人々みるよしさたあり。(御湯殿上日記 天文11. 3. 16)
- くもじごと (公事)
- なかはしと。たかくらとのくしの事。四辻大納言。くわんしゆ寺中納言に松木中將。権佐して一日の御くもし事おほせきかせらるゝ。(御湯殿上日記 永禄3. 5. 8)
- くもじながら (恐れながら)
- 御所様御きげんよくならせられ候よし、くもじながらめでたく存じまいらせ候。(宝鏡寺日記 明暦3. 3. 4紙脊)
- けもじ (卦体^{ツガイ}, いやな感じ)
- 又きゃしゃな所をいばば、内証でしかるにも、けたいのわるひをけもじのわるひといひます。(洒落本 浪花色八卦)
- げもじ (見参, お目にかかること)
- いか様、ちかぢかに参り、御げもじにて申あげ候べく候。(浮世草子 薄紅葉^二)
- ごけもじ (御見文字, お目にかかる)
- わが身ことも御めもじなり度ぞんじ候まま、あわれ此かたへ御出候へかし、くどく御けもじ候て申たや。(評判記 難波鉦^三)
- ごけんもじ (御見文字, お目にかかる)
- 御けんもじのとき、申まいらせ候べく候。(仮名草子 薄雪物語^下)
- 末武すすみ出よう出ようどふもどふも、鬼の娘に御げんもじ此末武めが思ひのたね。(浄瑠璃 姫山姥^五)
- ここもじ (此処文字, 自称, わたくし)
- ここもじすこしの御すきも御ざ候はば、(宝鏡寺日記 明暦3. 3. 4)
- ごそくもじ (御息文字, 御息災)
- それまでは、ずるふんずるふん御そくもじにて御暮し頼入。(浮世草子 御前義経記)
- 先づは長の道すがら、お煩ひも遊ばさず御息もじの鎌倉入り、(浄瑠璃 須磨都源平躑躅^五)
- 「随分御息もじで」「関の戸さま、兄造酒之頭さまへ、どうぞ」。(歌舞伎 傾城花絵合^二)
- こもじ (鯉)
- 鯉は こもじ。(海人藻芥)
- 一、こい こもじ。(大上藤御名之事)
- 源大納言御宮けにこもしまいらせらるゝ。(御湯殿上日記 文明10. 4. 2)
- (女中詞・女言葉・草むすび・女中ことばにも見える)
- こもじ (小麦)
- コモジ, 小麦。女性のことば。(日葡辞書)
- ことしのこもしのふくろまいる。(御湯殿上日記 慶長9. 6. 28)
- こもじ (紅梅の衣裳, 小袖)
- このこもし、そもしへと、ちくせん内みやけにこし候。(太閤書信)
- こもしのふくなるよしきこしめしてたふ。(御湯殿上日記 文明11. 11. 20)
- ごもじ (御文字, 御寮人, 婦人の敬称)
- 五もじ(豪姫)へ返事可申候へとも、めあしく候間、御心へ候へく候。(太閤書信)
- かへすかへす此ひはり五もじ、きん五、そもし三人ゑまいらせ候。五もしは、はやめしをまいり候や、きん五、よめ、五もしもけなげにや。(太閤書信)
- (女諸礼綾錦・女寺子調宝記にも見える)
- ごんおおすもじ (権大典侍)

- 御ひつし権大すもし。(御湯殿上日記 文明 10. 6. 5)
- ごんすもじ (権典侍)
- 権すもしも御さふらひあり。(御湯殿上日記 文明 11, 11, 20)
- こんもうじ (今文字, 今朝)
- 忍の前様へ申し上げます。今もうじは珍らしき雪の景色。(歌舞伎 御撰勸進帳)
- こんもじ (鱒)
- 一、ゑそ こんもじ, しらなみとも。(大上 藤御名之事)
- さかおもじ (酒粕漬の鯛か, さかおひら)
- 宮の御かたへさか御もしまいる。(御湯殿上日記 文明 13. 4. 9)
- さけのすもじ (鮭鮓)
- 万里小路さけのすもしの桶しん上あり。(御湯殿上日記 慶長 8. 1. 9)
- さもじ (肴)
- 女御よりさもしまいる。御ふくまいる。(御湯殿上日記 慶長 3. 7. 26)
- 鮓をすもじ, 肴をさもじとお云ひだから。(浮世風呂_三)
- さもじ (奎)
- さば さもじ。(大上藤御名之事)
- むかひ殿よりさもしのこまいる。(御湯殿上日記 天文 3. 7. 4)
- さもじ 奎。(公家言葉集存_五)
- さもじ (刺奎)
- 女一の宮の御方よりほんの御しうきさもしまいる。(御湯殿上日記 貞享 3. 7. 11)
- さもじ, 色のとと 刺奎。(女中詞)
(女中言葉・女言葉・女中ことばに見える)
- さもじ (「さ」で始まる語の後半を略し, 「もじ」を付ける。近世通人の間で用いる)
- ひとひしんぜたる文はさもじ<裂く>にして, おすちやったとの。(虎明本狂言 花子)
- 是れは初めて参りました験ばかり, さもじ<些少>ながらお納めなされて下さりまし。(人情本 恋の若竹_下)
- さもじ (左馬の督殿 人名)
- いまで川殿。おなしく左まの督殿より御さいきやうにより御けんともまいる。いつれもしろし。左もしへはこの御所よりしろ御たちまいらせらるゝ。(御湯殿上日記 延徳 1. 11. 1)
- さもじ (杓文字)
- サモジ。(和英語林集成 再版)
- しそのすもじ (紫蘇鮓)
- 林丘寺宮よりしそのすもしまいる。(御湯殿上日記 貞享 3. 6. 28)
- しゃもじ (杓文字)
- しゃくしは しゃもじと。(婦人養草_五)
- しゃくしは しゃもじ。(女重宝記)
- むつかしい, しゃもじなどと御所の内。(雑俳 軽口 作)
- 上もじ (上藤)
- 上もしの御さと思ひよらす御さかむかへに御まいり。(御湯殿上日記 文明 13. 9. 10)
- てんかく上もしよりまいる。(御湯殿上日記 延徳 1. 11. 13)
- しろきくもじ・しろくもじ (白酒)
- こわく御。しろきくもしにて一こんまいる。(御湯殿上日記 延宝 4. 1. 1)
- しろねりのくもじ (白酒)
- はかたのしろねりのくもしん上。(御湯殿上日記 慶長 4. 2. 25)
- しろゆもじ (白湯文字)
- 隠買女白ゆもじと云を地獄。(隨筆 皇都午睡_三)
- 白湯文字, しろゆもじは坊間の密妓を云。江戸の地獄と同物也。(隨筆 守貞漫稿)
- しん大すもじ (新大典侍)
- 新大すもしくらまへ御はんにて御まいり, (御湯殿上日記 文明 15. 3. 8)
- 新大すもしも御まいり, (御湯殿上日記 永禄 7. 7. 20)
- しん大もじ (新大挑侍)
- ふしみ殿御まいり。上らふ新大もし御てうしまいらせらるゝ。(御湯殿上日記 文明 16. 10. 30)

- しんすもじ（新典侍）
- けふの御てうし。新すもしまいる。（御湯殿上日記 文明9. 4. 28）
 - 劔しんすもし。璽は少将内侍。（御湯殿上日記 延宝8. 1. 1）
- しんなもじ（新納言）
- 新なもしよりみつかん一こまいる。（御湯殿上日記 天文5. 11. 27）
 - 代にとて新なもし御まいり。（御湯殿上日記 天文21. 7. 26）
- しんもじ（心文字，心）
- そさまのしんもしは、百ねんまんねんにても、さとられぬ御たしなみにて候。（評判記 吉原用文章）
 - 我々に詫言させ、荻野の末も笑草のたねとなさん御しんもじ、かねてより思ひしよりは、まだおぞき御心付にて候。（浮世草子 好色文伝受_四）
 - 誠に数ならぬ我が身に浅からぬ御しんもじの程、身に余り忝ふ存じまらせそろ。（浄瑠璃 新版歌祭文）
- しんもじ（親文字，親切）
- すぎし比より大事の御身を、かやうまで御心づかひ、せつなる御しんもじむげにつれなきも（浮世草子 忠孝永代記_三）
 - 数ならぬわたしへ初会から御しんもじのおことば、さりながら更々実と思はれず。（洒落本阿蘭陀鏡_五）
- すいもじ・すもじ（推文字，推量）
- 只一言申上度き事御座候へども、爺^{トッセン}様の手前耻しく得書残し申さず。よきに御すいもじ願い上候。（浄瑠璃 伽羅先代萩_四）
 - 思ひがけない不慮の御咎め、御心の内おすいもじいたして、（歌舞伎 傾城金秤目）
 - やっと今日札に出る位だからはれにて御推もじさ。（滑稽本 浮世風呂_前）
 - われもいはきにあらねは、御心中すもじ仕候へ共、（昨日は今日の物語_下）
- すいくもじ（すぐき，酢莖）
- すいくもじ すぐき。（略）すいぐき すぐき。（公家言葉集存_五）
- すけもじさま（介文字様，介様）
- すけもし様はわかかけに御座る、えをどらぬものにおどれとおしゃる。（女歌舞伎踊歌 豊島）
- すすたけのすもじ（篠筈の鮓）
- 御す、たけのすもじ色々まいる。（御湯殿上日記 天正14. 7. 28）
- すもじ（典侍）
- すもしより御てうしまいる。（御湯殿上日記 文明11. 9. 22）
 - なかはしより御うりまいる。すもしよりもまいる。（御湯殿上日記 文明14. 7. 6）
- すもじ（鮓）
- 大はらのりかくなたけのすもし。むめつけまいる。（御湯殿上日記 文明10. 4. 22）
 - 一、すし すもじ。（大上蘭御名之事）
 - かどのすもじがおいしいじゃないかいな。（東海道中膝栗毛_六）
- すもじの花（董の花か）
- 大すけとのよりも花。すもじの花まいる。（御湯殿上日記 永禄4. 3. 29）
 - （婦人養草・女重宝記・女中詞・女中言葉・女言葉・女中ことばにも見える）
- せもじ（芹）
- なかはしよりせり一おけまいる。（御湯殿上日記 大永6. 5. 27）
- せもじ（遊女せやま，人名）
- 仮名のせもじにしておくれんか。（洒落本倡客穴学問）
- せもじ（腸）
- 新大すけよりせもしまいる。（御湯殿上日記 大永8. 1. 15）
- せんもじ（煎茶）
- せんもじ 煎茶。（女中詞）
 - せんしちやの事 せんもし。（女言葉）
 - （女中言葉・女中ことばにも見える）
- せんもじ（先日）
- 大殿様には先^{セン}もじより段々に御快氣と、悦ぶ間もなう若殿様の御大病。（浄瑠璃 摂州合

邦辻上)

○せんもじ御めにつけ候。(洒落本 青樓奇談
狐穴這入)

そくもじ(息災)→おそくもじ。

そもじ(其方)

○この上はそもじの御心の通りを、残さず御
物語候へ。(仮名字子 恨之介上)

○いきのかよふうちに、そもしのはなを、そ
いてみせたまへといふ。(昨日は今日の物語上)

○のこる三さをはそもしせうくわ候へく候。
(太閤書信)

(女中詞・女中言葉・女言葉・女中ことばにも見える)

そもじ(蕎麦)

○そもじ 蕎麦。(公家言葉集存五)

そもじさま(其方様)

○そもじさまは、久々御さとに御とうりうに
て、(昨日は今日の物語下)

○さためてそもじさまも、うなし事にて候は
んと存候て、(太閤書信)

そもじどの(其方殿)

○そもじ殿の身の上になりしさま、よそごと
にしてきくに、(浮世草子 好色文伝受四)

そもんじ(其方)

○ソモンジはソナタ。(ロドリゲス日本大文典)

だいまじ御所(大聖寺殿)

○大もし御所。みもし御所けさくもしなる。
(御湯殿上日記 天文10. 2. 26)

たけのこのすもじ(筍の鯨)

○たけのこのすもしまいる。(御湯殿上日記 天
正9. 6. 13)

たけのすもし(筍の鯨)

○りしやう院より竹のすもしまいる。(御湯殿
上日記 長享2. 5. 29)

たもじ(蛸)

○みなせよりたもしまいる。(御湯殿上日記 大
永6. 10. 11)

○新すけ殿よりたもしのこまいる。(御湯殿上
日記 天文4. 4. 25)

○たこは たもじ。(女重宝記)

(婦人養草・女中言葉・女言葉にも見える)

たもじ(タバコ)

○たもじ 莨菪。(女中詞)

(女中言葉・女言葉・女中ことばに見える)

つきよのすもじ(飯鯨)

○月夜のすもしまいる。(御湯殿上日記 延宝9.
3. 23)

つもじ(鵜)

○鵜ハツモジ、但ツグミヲ供御ニハ不備也。
(海入藻茶)

○鵜の事 つもし。(女言葉)

つもし御所(通玄寺殿 人名)

○つもし御所くわん御なる。(御湯殿上日記 文
明10. 11. 18)

つもしさま(通玄寺尼宮 人名)

○御てうしともねうはうたち御申あり。つも
しさまよりもまいる。(御湯殿上日記 文明9.
2. 7)

ともじ(父文字)

○ともし、たらちお 父。(女中詞)

○何卒ともじ様つき候へば、勘平殿の一周忌
も引続き七月朔日に候へば、それまでには
是非々々まるり候て墓参りもいたし度く、
(歌舞伎 忠臣蔵後日建前)

(女中言葉・女言葉・女中ことばに見える)

ともじ(とら、人名)

○ともしへ まいる返事。(太閤書信)

ともじ(徳政)

○月ふけてはよし ともしのおとなるおな
し。(御湯殿上日記 文明17. 8. 15)

ともじ(取る)

○爰もとの不弁をいへば雑事銭今宵ぬもじに
ともじせらるる。(宗長手記下)

なかもじ(長橋局)

○なかもし くりまいる。(御湯殿上日記 天文
21. 9. 4)

○なかもし又御ふたまいる。(御湯殿上日記 天
文21. 9. 6)

なすのすもじ(茄子の鯨)

○なすのすもしまいる。(御湯殿上日記 慶長3.
8. 17)

なもじ（納言或は内侍）

- 御いままいりなもしまいる。(御湯殿上日記 享祿4. 7. 10)
- 日つみてよくて。こよひまつもと。すもし。なもしなと御うつり。(御湯殿上日記 文明9. 8. 9)

ならのすもじ（奈良の鯨）

- 新中納言ならのすもし一おりしん上申さる。(御湯殿上日記 天文19. 5. 25)

にもじ（にんにく）

- 一、にんにく にもじ。(大上藤御名之事)
- ひんかしのとうるんとのより、御たいよりまいるとて。御たる。かん。にもしまいる。(御湯殿上日記 文明13. 9. 29)

- ニモジ、忍辱。女性語。(日葡辞書)

にもじ（にら）→ふたもじ

- ひんがし山とのより二もしまいる。(御湯殿上日記 文明17. 4. 1)

にもじ御所（二宮）

- 二もし御所よりも御くりの御ふたまいる。(御湯殿上日記 延徳1. 10. 29)
- 二もし御所も御らんせらる。(御湯殿上日記 明応8. 3. 3)

ぬもじ（盗人）

- いま上らふぬもしに御あひあるよしきこしめして。御ふくをまいらせらる。(御湯殿上日記 延徳3. 2. 7)
- 難事銭、今宵ぬもじにともじせらる。(宗長手記)
- ぬもじ様の根本じゃ何もなく共よふあがつて下されませ。(浄瑠璃 傾城吉岡染)

ねもじ（練貫）

- 縫箔、織筋、ねもしなどは、すすし裏に苦しからず候。(姫入記)
- ねもしにはくぬいものなとして、うらあかくするものにて候。(禁裡女房内々記)

ねもじ・ねもんじ（練絹）

- 御くし置の御しうきねもしの御ふく。一かさね。(御湯殿上日記 延宝6. 11. 3)
- 女御の御かた御おり物。御ねもし。御おひ

いてきてまいらせ候て。(御湯殿上日記 慶長3. 12. 30)

- ネモンジ。日本のある種の白い布。女性語。(日葡辞書)

(女中言葉・女言葉にも見える)

ねもじ（葱）

- ねもじ 葱。(公家言葉集存)

ねもじ（ねまきかつら、根巻髷）

- ねもし ねまきかつら。(女中言葉)

○誠の髪を切るふりして、ねまきかもじのさを切てやる物じや。(評判記 難波鉦四)

ねもじ（ねね、人名）

- ねもし参。(太閤書信・宛名書)

ねもじのはし（白箸）

- 白はしは ねもしのはしと。(婦人養草)

- ねもしはし 杉はしの事。(女中言葉)

ねんもじ（念文字、念者）

- 娑婆にてならば御若衆ざかり、さだめて御念もじがあらう。(浮世草子 元禄太平記)

のすもじ（野典侍、人名）

- 御うし野すもしよりまいる。(御湯殿上日記 文明9. 6. 17)

のもじ（のもじ御所と同一か、人名）

- のもしよりしけ院よりまいるとて。はる。みるなとまいる。(御湯殿上日記 文明12. 5. 15)

のもじ（海苔）

- のもし一はこまいらせらる。(御湯殿上日記 天文6. 5. 20)

- のりは のもしと。(婦人養草)

のもじ（糊）

- のもし 粘ツの事。(女中詞)

- のもし のりの事。(女中言葉)

(女言葉・女中ことばにも見える)

のもじ（残り多いこと）

- 御めもじなし申さず、御のもじに存参らせ候。(洒落本 窃潜妻上)

のもし御所（人名）

- のもし御所けふもくもしなる。(御湯殿上日記 文明10. 9. 26)

のもじさま

○私方も夢にも存じましたらば、お誘ひ申し上げうのに、ホホホホホホのもじ様や。(浄瑠璃 道中亀山嘶...)

はうもじ (芳飯)

○こんすけ御てうしひさけ。はうもしまいる。(御湯殿上日記 弘治2. 5. 26)

はすのすもじ (蓮の鮠)

○はすのすもし一折まいる。(御湯殿上日記 寛永2. 5. 16)

はもじ (恥しい)

○小姫子のかくれごにさへまじらぬは もはや桂のはもじなるかよ。(古今夷曲集九)
○ぞんの外なるだしやうと、わがみながらもはもじなるらん。(浮世草子 好色床談義)
○はつかしき事 はもし。(女言葉)

はもじ (母)

○御めにかゝり候はん事、はもしにそもしへはかりはくるしからすと存候へとも、(太閤書信)

はもじ (拝賀か)

○やわたへいろうにつきて、けいかうの事ならず候よし、ふけより申され候に、はもし廿七日までのひまいらせ候。(御湯殿上日記 永徳3. 1. 18)

パモジ (ペアデレ)

○Pamonji (ば文字) は Padre (ばあでれ) を意味する。(ロドリゲス 日本大文典)

はもじい (恥しい)

○振切り給ふを、そりやならぬ、はもじい事のありたけを言はして置いて胴慾な。(浄瑠璃 苺萱桑門筑紫蝶...)

はもじがる (恥しがる)

○はもじがる内が牡丹の十日頃。(雑俳 兎の目)
○みそをする度に娠御ははもしかり。(雑俳 川柳評万句合 宝暦8. 9. 5)

はもじげ (恥しそうな様)

○爪をくわへ、はもじげにかたみすくめ。(評判記 吉原恋の道引)

はもじさ (恥しいこと)

○夏菊の香をふり袖と思ひなし、打つけながらとくはもじさ。(俳諧 若狐七)
○箱王は初事の傾域に顔見られ、くはっと紅葉のはもじさに、(浄瑠璃 加増岬我一)

ひともじ (一文字、葱)

○き ひともし。(大上藤御名之事)
○うちのほうおん院より、むめ、一もしまいる。(御湯殿上日記 明応3. 1. 10)

ひもじ (ひだるい)

○ひもじに見ゆる山寺のくれ、御ちごさま月をみじかくかきなして。(俳諧 犬筑波集)
○ヒモジ 空腹、女性語。(日葡辞書)

ひもじい

○ぬしはそれほどまでに、ひもじうざんすかへ。(洒落本 吉原帽子)
○お茶づけでも進ちませう物、久松おひもじかろのふ。(歌舞伎 心中鬼門角)

ひもじがる

○人のひもじがる時。(好色一代男四)
○空腹がらないだけの仕向けをしてやるがよい。(或る女 有島武郎)

ひもじげ

○彼女のかはりに猫がひもじげな声を立てた。(黒猫 龍胆寺雄)

ひもじさ

○いかにも寒素にひもじさやるせなし。(咄本 醒睡笑...)
○ひもじさに今ぞ頭は宇津の山。(仮名草子 竹斎下)

ふたもじ (にら、韭) →にもじ

○一、にら ふたもし。(大上藤御名之事)

ふなのすもじ (鮎の鮠)

○をのはん介よりふなのすもししん上。(御湯殿上日記 延宝6. 2. 26)

ふもじ (鮎)

○鯉ハ コモジ、鮎ハ フモジ (海人藻芥)
○なかはしよりこもし。ふもしまいる。(御湯殿上日記 明応4. 4. 4)
○なかたねふもし二まいらせらる。(御湯殿

上日記 文明 12. 1. 17)

(女言葉・女中ことばにも見える)

ふもじ御所 (伏見殿, 人名)

○ふしみ殿。かち井殿。きくまいらせられて御まいり。ふもし御所よりは三色に一か。かもしよりは一折にかたかたまいる。(御湯殿上日記 文明 14. 12. 8)

○十九日は入道宮の御事につきて。ふもし御所へ御継まいらせらるる。(御湯殿上日記 天文 2. 3. 16)

ほもじ (干飯)

○むろまち殿よりとしのほもし五ふくろまいる。(御湯殿上日記 文明 10. 9. 24)

○ひんかし山とのよりほもし五ふくろまいる。(御湯殿上日記 文明 16. 7. 22)

ほもじ御所 (保安寺宮, 人名)

○たんきけちくわん。ふしみ殿。かち井殿。仁和寺の宮。あもし御所。おもし御所より。ほもし御所。御そう御ふた所御ちやうもん。(御湯殿上日記 延徳 2. 11. 15)

みもじ (味噌)

○聖人 (すみざけ) 一つつ、味文字一をけ、生和布 (なまわかめ) 一こ。(日蓮遺文)

みもじ (民部卿, 人名)

○昨日みもしよりまいる御たる御しやうくはんあり。(御湯殿上日記 文明 19. 6. 20)

みもじ御所 (南の御所, 人名)

○みなみの御所御まいり。三色一かまいる。御さかつき二こんまいる。二こんにみもし御所御しやくなり。(御湯殿上日記 天文 2. 2. 22)

○みもし御所けさくもしなる。(御湯殿上日記 天文 10. 2. 26)

むもじ (麦)

○ムモジ。麦。女房詞である。(日葡辞書)

○むきは むもしと。(婦人養草)

○むきは むもし。(女重宝記)

○ほうし院とのむものくごまいる。(宝鏡寺日記 承応 2. 6. 10)

○麦めしの事 むもの食 おかちのめし。

(女言葉)

めのじ (飯, 妾)

○なぞとやった気恥かしいじゃアねへか、マアめの字にしてへの。(人情本 春色辰巳之園初)

○めの字からへの字に成るとつけ上り。(雑俳柳多留²³)

めめすもじ (めめ典侍, 人名)

○一ひきめめすもしとのへまいらせられ候。(御湯殿上日記 永禄 2. 8. 6)

○五せちにて二宮の御かためす。めめすもしも御さふらひ。(御湯殿上日記 文明 15. 11. 24)

やまぶきのすもじ (鮎の鮓)

○きくてい山ふきのすもし一をしきまいらる。(御湯殿上日記 文明 12. 3. 6)

○新しいし殿より山ふきのすもしまいる。(御湯殿上日記 天文 10. 5. 27)

やもじ (やわやわ, ぼた餅)

○とん花みんよりしろきあをき一ふた。やもしまいる。(御湯殿上日記 天正 3. 4. 6)

○すけとのやもし一ふたまいる。(御湯殿上日記 天正 9. 6. 20)

やもじ (薬師)

○にやくわう寺より御月まさりの御やもしまいていたたかせらる。(御湯殿上日記 永禄 11. 1. 25)

やもじ (やりくり, 情交)

○そもそもみづあげの下前髪の下よやかに、好色の雲をかざし、初床の夜のやもじにも、つひに客衆の花ちりぬ。(浄瑠璃 賀古教信七墓廻^五)

やもじ (遣手婆)

○三番太鼓ほのぼのと、せきてやもじが逢はせぬに、(浄瑠璃 傾城懸物揃)

ゆうもじ (夕文字, 前日の夕方)

○夕もじより段々のお心づかひ、殊に御念もじのお詞、(浄瑠璃 日高川入相花王^四)

ゆうもじ (幽文字, 幽霊)

○ナウナウ其れなる幽もじに物問はう、冥土^三の旅にも新銀は、四層倍に遣はるるか、五

- モンドリ
文餅も大きいか、(浄瑠璃 傾城無間鐘^四)
- ゆもじ (湯具, 湯かたびら)
- 御湯具の事にて、末々にてはおゆもしなど申侍は無下の事也。(后宮名目抄)
 - ゆもし二千疋下さる。(御湯殿上日記 慶長4. 8. 29)
 - ゆくは ゆもし。(女重宝記)
- ゆもじ (腰巻, いもじ)
- ゆもじにも火用心して花衣 その若草のつまのかいどり。(俳諧 蛇之助五百韻)
 - 長じゅばんと長ゆもじは、日にかざして見へぬやうなひぢりめん、但しひぢりめんのゆもじはちか頃外場所にて、(洒落本 東山見番 意妓口)
 - 同じ色のきりたていもじ山ふきの紋がらのよもぎどんす。(洒落本 妓者呼子鳥)
- (婦人養草・女中言葉・女言葉・女中ことばにも見える)
- ゆもじ (ゆかしい)
- 御いもじとも御ゆもじとも。さらに何の心も知り候はぬわが身に、(仮名草子 薄雪物語下)
- ゆもじばこ (湯文字箱)
- 戸棚へ鼠が這入ったさうで、湯具箱をさんざんかちつてネ。(滑稽本 古今百馬鹿)
- りよもじ (慮外, 失礼な事)
- りよもじながら返答。(歌舞伎 霧太郎天狗酒宴^四)
- りんもじ (りんき, 恠気)
- あねいもうとのりんもしもむつかしくて。(俳諧 塵塚^下 重徳編)
- ろのじ (呂字は口と口が接する, くちづけ)

 - あっけない出合呂の字をした斗り。(雑俳 柳多留¹⁰⁹)
- わかもじさま (若衆様)
- 御わかもしさま, ゆみや八まん, いのちかつれなふて、(昨日は今日の物語 多和本)
- わもじ (我身, 対称, そなた)
- ムム物部の守屋とはわもじのことか、珍しい対面しますの。(浄瑠璃 聖徳太子絵伝記^三)

- わもじ (わずらい, 病気)
- こか殿わもし。さいおんし殿わもし。(御湯殿上日記 天正17. 1. 19)
- わもじ (若者)
- 昼も高きたんなの麝香一包華奢なわもしの相撲あそばす。(俳諧 十寸鏡)
 - いまだ御年わもじなれば、すへのつとめかんなようなるべしや。(評判記 吉原三茶三幅一対)

[具体的用例はあるが、意味不詳のもの]

- あいのすもし (鮎の鮒か)
- 大すけとのよりあいのすもしまいる。(御湯殿上日記 天正8. 5. 18)
- あもし (食物であろう)
- みん部卿あもし一をりまいる。(御湯殿上日記 長享2. 2. 29)
 - 女るんの御所よりつち。あもし。くもしまいる。(御湯殿上日記 慶長8. 8. 21)
- いけ御もし (人名か)
- 大すけとの。いけ御もしよりところの御ふたともまいる。(御湯殿上日記 永禄3. 2. 10)
- いこみのすもし
- 上らふよりいこみのすもしまいる。(御湯殿上日記 天正14. 7. 12)
- 御うもし (人名か)
- 御うもしよりてんかいまいる。(御湯殿上日記 天文15. 8. 26)
 - 御うもしめてたさにとて。大す。権す。新大す。ひんかしの御方。なかはし御てんしむにて御さか月まいらせらる。(御湯殿上日記 文明11. 9. 23)
- 大すもうし (「大すもじ」か)
- 大すもうし。なかはし。いよ。(御湯殿上日記 延宝5. 1. 1)
- 御くもじ御所 (人名)
- おかとのへ御くもし御所より御うりとを二まいる。(御湯殿上日記 明応4. 7. 23)

御ともし（人名か）

- 上らふ御ともしのめてたさとて。く御の御なかに御てうしまいらせらるる。(御湯殿上日記 文明12. 6. 5)

おもし・御もし（人名）

- あけみやの御かたまり。おもしへたけまいる。(御湯殿上日記 寛政21. 1. 16)
- とうさい将の御もしいままいりあり。(御湯殿上日記 元龜2. 12. 17)

御ほもし（人名）

- いま上らふ御ほもしはしめて御下行めてたさとて御てうしまいりて御いわるあり。(御湯殿上日記 延徳2. 9. 3)

かうらいのうもし（高麗，食物か）

- くわんはくよりかうらいのうもし五ふくろまいる。(御湯殿上日記 天正18. 11. 22)

かんすもし（人名か）

- 御たみの御方より宮の御方へ。かんすもしまいる。(御湯殿上日記 文明10. 10. 4)

きふのすもし（岐阜の鮭か）

- おはり中納言よりきふのすもし進上。(御湯殿上日記 天和2. 6. 12)

くもし物（食物か，串柿など）

- うちよりくもし物なとまいる。(御湯殿上日記 文明15. 1. 8)

七てうのすもし（食物鮭か）

- 七てうのすもししん上。(御湯殿上日記 寛永2. 6. 21)

すなのすもし（食物鮭か）

- すなのすもししん上す。(御湯殿上日記 延宝5. 5. 2)

そうもし（人名か）

- 御所御所より御かいの御せうふに。そうもし御申さたにて。おとこたち御ひくひくなり。(御湯殿上日記 弘治2. 4. 2)

つかいのもし（食物）

- せいしゅん上人御はらい。あわしん上申。つかいのもし一おりしん上申。(御湯殿上日記 弘治3. 2. 8)

つるへのすもし（鮭の一種か）

- 庭田つるへのすもししん上。(御湯殿上日記 天文12. 8. 4)

ともし（食物）

- 女院よりともしまいる。(御湯殿上日記 慶長6. 2. 3)

なもし（食物）

- むろまち殿よりとしのしなもしまいる。(御湯殿上日記 文明11. 7. 30)
- いよ殿より御てうし。なもしはかりにて、あつ物はまいらす。(御湯殿上日記 文明18. 9. 13)

はもし（食物か）

- みん部卿よりはほしまいる。りしやう院よりわら二こまいる。(御湯殿上日記 延徳2. 4. 6)

むもし

- 御みなしも御むもしさまと、(洒落本 雙床満久羅)
- 御ひらかせも御むもしなから、(洒落本 御膳手打翁弉我)

ゆすもし（典侍，人名）

- あざかれゐ、ゆすもし(御湯殿上日記 明応4. 1. 2)

わもし

- ひろはしよりかん一。わもし一まいる。(御湯殿上日記 文明10. 1. 18)

〔語形・語義は分明だが具体例を欠くもの〕

おたもじさま（母）

〈おたたさま・おたあさま〉

きょうもじ（本日）

〈きょうび〉

くもんじ（公文字，訴訟ごと）

〈くじ，公事〉

こもじ（乞食）

〈こつじき，こじき〉

こんもじ（ねんごろ）

〈懇意・懇切〉

こんもじ（本日）

〈今日・こんにち〉
 さもじ（砂糖）
 〈砂糖・さとう〉
 すいもじ（好いたお方）
 〈すいたかた・すいたひと〉
 せんもじ（相手・先方）
 〈先方・せんぼう〉
 ねたもじ（妬ましい）
 〈妬し・ねたし〉
 はもじ（お歯黒・歯ブラシ）
 〈歯黒め・はぐろめ、歯ブラシ〉
 ふもじ（文・手紙）
 〈ふみ〉
 ふもじ（母）
 〈おふくろ〉
 めもじ（逢うこと）→おめもじ
 〈めみえ〉

ひまのおりちと二文字牛の角もし。（狂歌
 古今夷曲集^九）
 ふもじ・ふもんじ（文字を知らぬこと）
 ○わきより不文字のさしでもの、ひなんをく
 わせた。（昨日は今日の物語^上）
 ○亭主一向不文字なるを、（醒睡笑八）
 むもじ（無文字、文字を知らぬこと）
 ○ムモジナ、字を知らぬもの。（日葡辞書）

〔「もじ」の形はあるが文字詞と異なるもの〕

つのもじ（角文字、平仮名の「い」の字）
 ○つので文字もかく事ならで般若経よむのはう
 はの空おぼえ也。（狂歌 徳和歌後万載集）
 つぶてもじ（礫文字、一字宛離して書く文字）
 ○礫文字打つけ書にする時は薄き屏風の紙や
 破れん。（狂歌 古今夷曲集^九）
 でんもじ（殿文字、殿という文字）
 ○どん太郎殿の手ぐるまと、でんもじを付て
 くれさしめ。（虎明本狂言 鈍太郎）
 とおもじ（遠文字、見なれぬ字、読めゆ字）
 ○見なれぬはとを文字といふ。（俳諧 類船集）
 なもじ（名文字、名前を表わす文字）
 ○ふんの結び目に、故治部卿のぬしのみなも
 しゑりつけたり。（宇津保物語 蔵開^上）
 ははもじ（母文字、母）
 ○ハハモジ。（和英語林集成 再版）
 ふたつもじ（平仮名の「こ」）
 ○折よくは申させ玉へふたつ文字牛の角もし
 奉るなり。返し、魚の名のそれにはあらず